

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和5年度第2回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和5年8月29日(火) 午前10時～12時
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子、閑念勝代、高田祐久子
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	—
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育創造部長 足立英則 学校教育課学校教育担当主幹 兼 教育研究室長 宮下晋一 幼保連携課長 伊藤宏明 幼児教育センター長 橋本恭代 幼保連携課（幼児教育センター）小林木綿子 幼保連携課（幼児教育センター）西村麻衣子 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 第1回視察訪問について(報告) (2) 今年度事業の評価報告について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会 委嘱状交付
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) ここからの進行は、委員長にお願いする。
委員長	3 第1回視察訪問について（報告）

事務局	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 「各園の今年度目標・特色等（まとめ）」 ・資料2 「令和5年度西脇市就学前教育推進事業視察訪問（1回目）」
各委員	<p>～各園の今年度目標や取組状況、感想・意見 保育内容～ （主に課題について）</p> <p>園①</p> <p>0、1歳児は、指先を使って遊べる玩具を用意したり、全身を使って遊んだりすることも意識されていた。</p> <p>2歳児は、先生方はじっくり遊んで欲しいと思っておられたが5～10分で十分だと伝えた。例えば一年生の授業が45分あるとして10分や15分で区切りながら、授業を進めておられる。そう考えると、5歳児位で10分～15分ぐっと集中して遊ぶ力が育てば良い。2歳で夢中になって、20～30分一つの遊びを続けるということは、求めなくても良いことを伝えた。</p> <p>3歳児は経験の差、描画の発達の差が大きい時期で、高月齢の子は4歳、低月齢の子は、やっと3歳になったところ。1学期は好きな遊びを見つけよう、という段階でまずは一人一人が好きな遊びを見つけるところからゆったり保育を進めていけば良いという話をした。</p> <p>4、5歳児も、工夫しながら子ども達の好きなコーナーを作っておられた。</p> <p>5歳児は遊びを継続させるために共通の目的を持ち、その日だけで完結するのではなく、続いていく保育の在り方を考えながらやっていくと良いと伝えた。その中で、徐々に繋がりが生まれ、小学校でいう主体的対話的深い学びになっていく。継続させるためのきっかけ作り、ということ意識すると良いと伝えた。</p> <p>園②</p> <p>0、1歳児は、ままごとの際、物の取り合いになり、共に遊ぶことが難しい、と悩んでおられた。基本的に1歳児クラスは、月齢の差が大きいため、ままごとコーナーを部屋に1ヶ所だけと考えるのではなく、2ヶ所位に分散して、低月齢と高月齢の子が分かれて遊</p>

ぶことのできる環境にしたかどうかと伝えた。「1歳になっていない子」「1歳前後の子」「1歳後半から2歳の子」というように3グループに分けて考えた方が、個々に応じた保育をしやすいという話をした。

2歳児は、ままごとで遊べるようになってきたということで環境を既成の物や手作りの物等工夫されていた。

3歳児は、低月齢児が多いと言われていた。、焦らず緩やかに、2.5歳児クラス位のイメージで考えたらどうかと伝えた。やはりどの園も共通して、先生方は、特に3歳以降の集団をどう作っていくか、ということ意識されているが、集団での活動はまだ焦る必要はないと話をした。

5歳児は、制作している子ども達は、今現在は作るのが楽しい段階。次は作った物で遊ぶ段階にしていこうという話をした。「環境を通して行う」という保育の考え方が浸透してきていると言える。さらに、自分たちの保育を、これまで以上にバージョンアップしていくことを、管理職が意識されているというところが大事なんだということを伝えた。

園③

0, 1歳児は、月齢の差があり、理解できる語彙数が異なるので、一斉に指示しても伝わらないということを話した。話ができる語彙数が違うということは、言い換えると理解できる語彙も違うということをお伝えした。

2歳児クラスは、適切な玩具の数と種類を悩まれているので、自我が出てくる時期なので、取り合いにならない程度の量を確保し、まず一人一人が満足できて十分に遊べるように環境を整えた方が良いとアドバイスした。

3歳児は、まずは自分の好きな遊びを見つけ、個々の子どもが満足できるようにすることが大切だと伝えた。

4歳児は、好きな遊びが充実するような環境作りを考えられていた。ただいろいろな遊びをやりたい子ども達に先生が応えるには、待たせてしまうことが多いことに悩まれている。下半期の中で徐々に子ども達に任せられるようにしたら良いのではと伝えた。

5歳児は思考力が生まれてくるような試行錯誤をしながら、遊んでいた。年長になるとどこの園でも意識されるのが、活動した後の振り返り。今の時期は「こんなことしたよ。」という「発表の場」

位で良いのではとアドバイスした。また発表する際には、子ども達自身が何をしていたのかを明確に振り返っていくために、遊びの写真をプリントアウトする等、視覚に訴える物があると良いと伝えた。

造形遊びを通しての幼小接続が期待できると思った。

全体的な感想として、2クール目に入った今年ということ考えた時に、1クール目以上に先生方の保育力が高まっていると感じた。そして、質問の内容も初歩的な質問というより自分達の保育をこう進めていきたいが、妥当なのかどうかということをお教えしてもらいたいというように自分の保育、自分達の保育を進化させていかれていると思った。

園④

5歳児視察当日は実験をして振り返っていたが、講義形式になっていた。子ども達が実験をしている時のつぶやきは非常に良かったので、グループでやってみたらどうか、という話をした。

4歳児は、制作活動で魚を作っていた。作った先に、「作って遊ぶ」になると良い。4、5歳児は子どものアイデアをどう生かしていくかが、今のところの課題である。

3歳児は、ままごとの道具や材料が既製品から素材的な物に変わっていったら良い。具体物から抽象的なところへの橋渡しができたらより創造力が膨らんでいくと思う。

2歳児は、ままごとコーナーに、見せる収納や、かける収納があると良いと思った。最近では手首が使える子が多く、就学した際、字が書けなかったり、筆圧が弱かったりする子が多くなってきている。ままごと道具の泡だて器やスプーン等を扱う中で手首が使えるようになると良い。

1歳児は、子どもの活動に合わせて、玩具を出し入れされていた。布を掛けたり蓋をしたりして、遊べる時と遊べない時の区別をつけたら良いと思った。

0歳児も雰囲気良かったが、伝い歩きする環境がなかった。牛乳パックや段ボール等で仕切りを作り伝い歩きができたり、体をうまく使えたりするような環境にしてもらえたら思う。

園⑤

5歳児は役割があることが大事だと思う。子ども達が主体的に活動することができるように、と工夫はされているが、子どもが見通しを持っていないために教師が計画してしまうこともある。子ども発信で見通しを持って活動を進めていく、ということがあると良いのではと話をした。

4歳児は、子ども同士の思いがぶつかることが多くあったので、タイミングよく止めること、話をしっかり聞くことを、子ども達と共に教師が、気を付けたら良いと思いアドバイスした。

3歳児は「子どもは言うこと聞いてくれません。」と悩んでいたもので、それが当たり前だとアドバイスした。「子どもと共に感動する、面白い、喜ぶ、という気持ちを揺らしてね」と伝えた。

2歳児は遊びが定着しないと悩まれていた。先生と一緒に遊んで遊ぶと良いとアドバイスした。「見守りが大事」と思うとなかなか入れないが、頑張ってもらいたい。

1歳児、手作り玩具がたくさん用意されていた。「つまむ」活動はできているので、回す、引っ張る、ねじる等ができる環境を工夫されると良い。

0歳児はアタッチメントがちゃんとできてくると良いと思ったので、緩い担当制を考えてはどうかと伝えた。

全体的な感想として、1巡目の訪問では園長先生の思いがあり、園長先生のカラーが強く出ていたと思った。年数重ねていくにつれ、先生方自身がこうしてみたい、ああしてみたいという思いを持たれたり或いは委員の先生方にこういう助言をいただいたのでこのようにやってみますというように自分の思いを伝えられるようになったと感じた。段々その個人差が見え始めたのが、1巡目の終わりぐらいだった。

2巡目は先生方のこうしたいという思いが、保育の中に現れてきているということ、まざまざと見ることができた。

園⑥

0歳児は、目線の場所に興味が持てるような物を飾っても良いと話した。指先を使う玩具を用意していかれると良いと伝えた。

1歳児クラスは、牛乳パックで作ったままごとコーナーがあった

のですがそこにテーブルを置かれたらどうかと話した。テーブルを置くことで床にお皿を置いたりしなくなると思うと助言した。

2歳児クラスは、遊びが限定された自由遊びになっていたのも、玩具が自由に取れるように、空いてる棚等を使い、環境整備をされたらどうかというアドバイスをした。

3歳児クラスは、歌唱指導をされていた。良い声で歌えている子をピックアップしたり、他のクラスの子ども達が綺麗な声で歌っている所を聞かせてもらったりすると良いのでは、お伝えした。

4歳児クラスは、子どもが発表する際、聞き取りにくかったり、誰が話しているのか分かりにくい場面もあったので、立って話すよう促しても良いと思った。先生がもっとオーバーリアクション的に反応すると、他児も反応して、友達にも伝わっていくということをお伝えした。

5歳児は、担任の先生が、振り返り等で内容や問いかけが同じようになりがち、ということをお悩まされていたので、先生の、子ども達の言葉を引き出すためのボキャブラリーを増やすことや、子どもの言葉を受けて、オーバーリアクション気味に受け答えしてみることを提案した。

園⑦

1歳児は、子どもの視線の高さに興味のある物を置いたり掛けたりされたらどうかと話した。

2歳児クラスは、玩具や道具を出しておいて、子ども達が自分で選ぶことの大切さを伝えた。また道具等に布を掛けたりすることで、「今は遊べない。」ということをお、子ども自身が分かるようにすることの大切さも伝えた。

3歳児クラスには人形があり、その片づけ方法が置いていただけなので、布団と枕があると丁寧に扱い、人形・布団・枕が一对一对で片付けることができるとアドバイスした。

4歳児は、送迎時の保護者との関わり方や、先生と子どもの信頼関係から自己肯定感を高めるアプローチをしましょうというアドバイスをした。降園時、一人一人が頑張った所を保護者に、伝え、家庭でも褒めてもらうよう促す。すると、子どもは、その時に先生から褒められる、帰り際に褒められる、お家でも褒められるという3回も褒めてもらえるということになる。そんなアプローチの方法もあります、ということをお伝えした。

5歳児クラスは、保育中の先生の立ち位置についてアドバイスした。子ども達にとって目の前に情報が多くある中で、先生の話聞くことになる状況はあまりよくないと思った。どこで何を話すのか、どういうふうに伝えるのかを工夫されたら良いとアドバイスした。

園⑧

0、1、2歳児クラスの保育室が広いワンフロアなので、各学年の保育の邪魔にならないような動線を、仕切りを使って作ることを助言した。

0歳児は、壁につまむ・引っ張るなどの玩具や仕掛け、ビジーボードや段ボールや牛乳パックで作ったバス・新幹線・トラック等を押して遊べるような玩具をすすめた。また、玩具の収納方法や絵本棚の設置について助言した。

1歳児クラスは段々になっているマットで遊んでいた。子どもの発達に応じた運動遊びを部屋の中でできる環境にあるので、段差を変えてみることも等、安全を見守りながら、少し危険なこともしたい年頃であることを考慮して玩具を提供されると良いと助言した。

2歳児クラスは、玩具を出しっぱなしにすると良い。とても綺麗に片づけてあるので玩具が出しっぱなしになっていると、もう少し主体的に子ども達が遊びを選んでいくのではと伝えた。

3歳児クラスのままごとキッチン、本物のお鍋、フライ返し、泡だて器やお玉、トングの道具を増やすことや、かける収納、見せる収納等をすすめた。実生活でも使いやすいキッチンとそうでないキッチンがあるように、子ども達にとって使いやすいキッチンを考えてみて欲しいと伝えた。

4歳児クラスは、手作りのいいハウスが作られていたので、子ども達は活用していた。4歳児が2クラスあり、隣のクラスと左右対称のような部屋の作りになっていた。仕切りを使って隣のクラスと、L字型で交流しやすいコーナーを作ることを提案した。

5歳児クラスは、机が並んでいるのが特徴であり、そのことについて話をした。ままごとキッチンはないので、コーナーづくりでいろんな遊びができると思った。

【特別支援内容】

先生方がピンポイントで話をしたり、質問をしたりしてくださる

ようになってきた。継続的に見ている子は、記録があるので変化がわかり、詳しく話ができる。環境に不適應をおこす子の集団への入り方を考えるには、まず、不適應を起こす要因を探る必要がある。職員数や環境に制限がある中で、個別対応するため、苦肉の策で仕切りを使ってスペースを作ったり、段ボールハウスを作ったりして調整されている。その状況を保護者にどう伝えていくかが課題。小学校との連携を含めて4～5歳になるとどのように伝えていくかという話が各園で出てきている。

【園小接続内容】

今年度で2年目になった。昨年度、小学校に作業療法士さんに来ていただいて研修をしたので、今年度は、体の発達についてのお話をさせてもらいたいと思い訪問した。指先、手首などの動きから、雲梯につかまる・鉄棒で体を支える・お箸を持つ・鉛筆を持つ・習字の時に姿勢を正しくする等の活動に繋がることや、指先や体幹の重要性を話す機会を作っていた。

つまむ・ひねる・引っ張る・はじく等いろいろな遊びをしてもらいたいことを伝えた。ままごとにはほとんどの作業動作が入っているので、ままごとは十分させてもらいたいと伝えた。今は、タブレットで動画を見ているため、目が動きにくい。園にあったゴムをつけてペットボトルキャップを飛ばす玩具、透明のペットボトルの中をボールが動いたり歪な形のものが動いたりする様子を目で追うことは、目と手の協応になると思う。また、小学校は読書で落ち着いてスタートするところが、園では発散からスタートするという新たな視点を見せてもらうことができた。

園への理解がないと、小学校との接続は深い溝になってしまうので、園訪問や、学校訪問の機会が増えれば、溝が狭まっていくと思った。

【教育委員会】

園を訪問すると植物が置いてあり、昆虫がいて、興味がある子が観察している姿を目にした。園児同士がぶつかったら謝り、園児が物を協働して運んでいた。先生の声かけも良く、教育の仕組みや結果が見受けられた。

制作活動では準備も片付けも大変だが、一人一人テーマが違う。まさに個別最適化された学びが行われていて、遊びの中でいろんな

事務局

	<p>成長があると思った。良い仕組みがあるので、先生のスキルも合わせて向上すると、園のレベルが上がっていくと思った。また、研修で個別に委員の先生と質疑応答し、学ぶ仕組みが素晴らしいと思った。</p> <p>今年度も園小交流訪問では、こども園に小学校の先生がたくさん来られた。来年は、園の見てほしいところを明確にすることや、小学校へ5歳児の担任だけではなく、多くの先生に見てもらい、交流が進むように委員会としても取り組んでいきたい。</p>
委員長	<p>今報告いただいたことで、確認したい事、質疑応答、意見交換をする。</p>
教育長	<p>今の子どもは、発達に問題や課題を抱えている子がデータの的にも増えてきているが、これから園小接続や教育・保育を一元的に進めていく中で、その子どもたちを放置できないと思って聞いていた。今日はボリュームがあって、頭で整理できないぐらいたくさんの課題も見えた。先生自身の問題も、今までと環境やシチュエーションが変わってきていると思う。それを含め、新しいカリキュラムもどうあればいいのか。時代の変わりと社会の変化、子どもたちの資質、どうとらえたらいいのか。</p>
委員長	<p>今のことで委員の皆さん、ご意見ををお願いします。</p>
委員	<p>使う筋肉や能力も今までと全然違うところを使っているので、システム自体全部変わらないと難しいと思う。情報をキャッチする力や面白いこと考える力は結構でついてきている。指先しか使っていないが情報収集能力は高い。ただ能力にばらつきがあるので、一人一人の興味関心にあわせて伸ばしていくしかない。「先生の言う通りにさせましょう」は通用しなくなっている。玩具を先生が思ったものしか出さないというのはきかなくなってくる。自分で選ぶこと、組み立てていくことを、乳児からしていかなないとたぶん追いついていけないと思う。</p>
委員長	<p>私から別の切り口で考えたいと思うのが、保育の基本的な考え方や進め方、環境のあり方は大分整ってきた。今度は、それを使って何のためにそういう環境があった方がいいのか。例えば、ままごと</p>

<p>委員</p>	<p>の環境は発達段階でこんな育ちがあるからがこういうものがあつたら良いとか。手先・指先、手首を回すこと等を動かすことが必要だから、混ぜるようなことができるような環境があつたらいいよねとか。機能訓練的なこと含めての発達保障ができるような、環境づくりになればと思う。</p> <p>子ども達は賢いので弱さを隠していく。自分の体の中で動かしやすい部分を使うので、使っていない部分がある。例えば指先は使わず手のひらを使って、水筒の蓋を開けている。結果として水筒の蓋を開けることはできているが、よく見ていたら指先は使えていない。そこに気づき、使っていないところを意図的に使う遊びを考えるなど、作業療法士さんに入ってもらいと細かいところが見てもらえる。</p> <p>そのままにしておくと、将来、「何でできないんだろう」と「できない自分」というストレスがかかって、学校や職場から離脱していく子が出てくる。私たちが巡回しているが、そういう視点で見ただけの専門的なアドバイスや、見通しを聞くと分かりやすいと思う。</p> <p>作業療法士で子どもの相談対応ができる方が少ない。年配の方の対応ができる方は多いが、発達特性がある子どもの対応経験のある方が少ないと思われる。経験のある方をセンターに紹介した。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3「年間スケジュール（後期）」について 説明、確認、了承</p> <p>4 今年度事業の評価報告について</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局説明 資料4「自己評価報告書作成の流れ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育、特支、園小の入力について ・教育課程の入力について ・公表までの流れについて
<p>委員長</p>	<p>いくつか切り分けながら確認する。 資料4だが、教育・保育内容についてはもう昨年度同様でよろしいか。⇒委員同意</p>

	<p>次、教育課程の編成で資料によると、安全管理防災教育や職員資質向上等、『一言コメントでいただく』となっているが、それによろしいか。⇒委員同意</p> <p>続いて、園小の連携に関して、今年度についてご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>令和3年度のようにまとめて書く方が良いか、各園ごとに書くほうが良いか。</p>
事務局	<p>できたら各園ごとに書いていただきたい。</p>
委員	<p>了承</p>
委員長	<p>引き続き、協議事項3、その他事務局説明をお願いします。</p> <p>5 その他について</p>
事務局	<p>事務局説明 資料5「令和5年度認定こども園保護者アンケート集計」</p>
委員長	<p>ホームページ掲載にあたり、回収率86.5%でアンケートとしては回収率が高い。保護者に向けてホームページ発信する時に協力や熱心を書いていただいたことへのお礼が一言あった上で、情報公開してもいいと思う。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。そのようにする。</p>
委員長	<p>先程の話で、次年度のアンケートと同じ方法で集計結果を出すにあたって、3年間の伸び率を見て、伸びているという変化があれば、質の向上をしていることがいえると思うので、分析をしていただきたい。</p>
事務局	<p>項目等検討していきたいと思う。またご相談に乗って頂きたい。委員の皆様よろしく申し上げます。</p>

<p>委員長</p>	<p>資料6 「R5自己評価様式（5歳児）」 資料7 「10の姿 就学前教育・保育カリキュラム（5歳児）」</p> <p>今の提案を受けて、先生方から意見や質問は。</p>
<p>委員</p>	<p>助言を受けての方策、取り組みを書くのはすごく良いと思う。その他があるのも良いと思う。カリキュラムの方で細かいが、人間関係の心情で、黄色の一番上。『自分が知っていることを遊びや生活に取り入れ…』と書いてあるが、『知っていることや、調べたこと』と一言入れてもらおうと嬉しい。</p>
<p>委員長</p>	<p>では資料6は提案のままでいこうと思う。 またカリキュラムの方も、赤字や黄色マーカーがあるが実際は取って、いつ配布予定か。</p>
<p>事務局</p>	<p>できたら、来年度、この資料6の改訂版を自己評価で使いたい。本年度中に0歳児から全部作り、委員の皆様に見ていただいたあと、こども園の園長先生方にも話をしていただき了承得ましたら、今年度中にあげたいと思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>文言とかは、また改めて御意見が出てくると思うが、方向性はこれで良いと思う。</p> <p>委員了承</p>
<p>事務局</p>	<p>以上で議題が終了した。みなさんの円滑な審議、御意見に感謝する。進行を事務局にお返しする。</p> <p>6 次回開催予定</p> <p>次回の会議は、令和6年1月31日（水）午後3時から予定している。 閉会の前に教育創造部長よりご挨拶申し上げます。</p> <p>あいさつ</p>

7 閉会

以上をもって、本日の会議を終了する。